

Capo. 3 1-7ALG
Capo. 1 オープンD

D#

進めナンバーワン

どしなに小さくても どしなに些細なことで
なしたってかまわない 進めナンバーワン **

強..ばかりかいいのでない
言われて又い 今日この頃の競争相れ

個性的ならそれでいい
勇気づけられ 安心してもそれでいいのか

持っているもの すでにあるもの
けして目指す必要はない

たけど それをさらに磨いて
目指せナンバーワン

平和主義であること 悪いことではない
それよりも努力し続け 勝てる人になること

(★~★★)

比べられない個性と個性

何かよくていけないか 人それぞれ

誇られがに生きればいいと

勇気づけられ 安心してもそれでいいのか

持っているもの すでにあるもの

確かにかけがえのない

たけど それをさらに磨いて

進めナンバーワン

一生懸命であること 悪いことではない

それよりも努力し続け 勝てる人になること

(★~★★)

左オ-TvD } capo. 2

オ-7v9 Bm

風

0 5 7 0 5 5 7
7 D 0 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm

0 5 7 0 5 5 7
0 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm
どこまでも風に流されたいなる

0 5 7 0 5 5 7
0 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm
調子かくる。たふたりの話をしたあとは

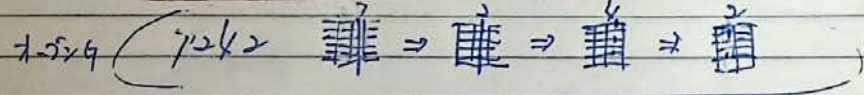
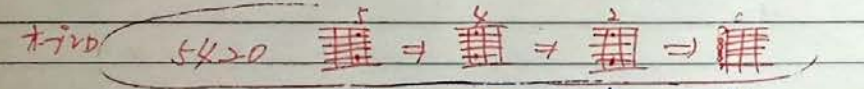
0 5 7 0 5 5 7
0 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm
不安な言葉があとにいつでも残される

7 0 5 7 0 5 5 7
7 D 0 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm

0 5 7 0 5 5 7
0 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm
いつおもうこにふたりをかかへて

0 5 7 0 5 5 7
0 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm
地面に向かうつむいては言葉を探している

0 5 7 0 5 5 7
0 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm
しりけた会話があけくに耳に残る



DADF#AD (オ-7vD)

D G D G A# D (オ-7vG)

シヤシヤ シヤシヤ シヤシヤ

5 0 10 5 12 7 12 7
G C D G D

風よどうかこの空間を

5 0 10 5 12 7 12 7
G C D G D
すかい。気持ちに吹き流してくれ

6 0 C 5 D 7 6 0 D 7
風よどうかふたりの間を

6 0 C 5 D 7 6 0 D 7
すたおで明るいものにしてくれ

7 0 5 7 0 5 5 7
7 D 0 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm 7 D 0 G A Bm

6 0 5 7 0 5 5 7
6 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm 7 D 0 G A Bm
どこまでも風に流されたいなる

6 0 5 7 0 5 5 7
6 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm 7 D 0 G A Bm
調子かくる。たふたりの話をしたあとは

6 0 5 7 0 5 5 7
6 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm 7 D 0 G A Bm
不安な言葉はいつでもいつでも残るだけ

7 0 5 7 0 5 5 7
7 D 0 G → A7 7 D 0 G 0 G → A7 4 Bm

この冬は暖かった

ソファの柔らかい手すりを枕にして

まぶたの裏側 明るさを感じる

まじろみの中でからだ中も

ゆずかに上下に動いてる

思い起こせば通り過ぎた

この冬は暖かった

ずっと前から出会ってなかった

懐かしい人 たくさん出会えた

まぶたの赤...色がやがて昔の時

映し出す鮮明に 懐かしい風景を

まじろみの中でからだ中も

確かに前後に動いてる

思い起こせば通り過ぎた

この冬は暖かった

すでにこの世で会えなくなってる

懐かしい人 夢で出会えた

空を見上げよう

Am G

Am Dm
もう何にもしたくない。

F C F#m
ふと外に出てみると

Am Dm
いつの日か知らぬ間に

G G#m
みとらいろ澄み渡る

C Am Dm
すっかり暖かくなった

F Dm G
空気が心と裏腹に

C Am Dm
手拭のマスクを抜けてゆく

F Dm G G#m
心地よい涼しさが残る

C Dm G C G
空を見上げよう 今この瞬間に

C Dm G C G
心の涼りが確かに感じられる

もう誰とも会いたくない

そんな時にマスクして

いつの間知らぬ街

みとらいろ澄み渡る

すっかりたれたモバイル

不便さがむしろ幸いに

全ての関わりを閉ざした

心地よい居場所が生まれる

空を見上げよう 今この瞬間に

心の涼りが確かに感じられる

空を見上げよう 今この瞬間に

できる何かを確かに感じられる

後ろの風景

Am Dm G Em E7

^{Am} すっかり陽が ^C 沈んだ道

^{Dm} ふと車止めて振り返る橋の向こう

^{Dm} まち白く ^G 光る ^C いたち ^{Am} が

^{Dm} 懐しい山並み ^G ああ

^C いま走り過ぎてゆく ^{Dm}

^F 帰りの下でゆく道 ^C

^C ずっとカーブ ^{Dm} 続きて

^F その先もよく見えないよ ^C ^G

^C ギアを下げて

^{Dm} ブレーキで ^G エンジン任せで ^C ^G

^C ひたすら走り

^{Dm} いつも感じる ^G 後ろの風景 ^C ^{E7}

とっぴり落ちてしまった道

ふと見上げるバックミラーに

追いかけるよう時折映って

さっきの山並み ああ

いま通り過ぎてゆくいつもと違う時間

とはまだ名残り惜しいなれども言えない非日常

我に帰りブレーキ踏むスピード抑えて

ひたすら走りいつも感じる後ろの風景

いま走り過ぎてゆく暗い山あいの道

長い休日の終わりなれども言えない寂しい

ギアを戻し静かになったエンジンの音で

また始まる日常のふりな平坦な道

縁とゆかり

「縁」は偶然で不思議な「ゆかり」

「ゆかり」は必然で過去との「ゆかり」

いい時もあるけど悪い時もある

けれど断ち切りたくない

「ゆかり」なくても自分の「運命」だけは

かたがえのない与えてもらえるもの

「縁」と「ゆかり」と「運命」も共に

「恩」の字に変えた

「縁」は自分で作れないもの

「ゆかり」も自分で作れないもの

いいこともあるけど悪いこともある

けれど無くしたくない

自分の力で作れる「運命」だけは

けれどそれも最後は変えられない

「縁」と「ゆかり」と「運命」も共に

「恩」の字に変えた

Capo. 3 1-2W C
Capo. 1 オープンD

D#

さあ出かけよう

2: 5 T
Am F G

0 5 5 0
C F D# C
一年のうちで一番

0 5 5 0
C F D# C
気持ちよく 洞じしやすく

2: 5 7 2: 4
Am F G Am E7

大きめのハンカチ 水筒も一緒に

いつも背負ってる バッグに詰めて

0 4: 2: 2:
C Em Am Am7

青空の下 出かける

F5 G7 E7 4
まだは車で 遠くの場所へ

C0 Em4: Am2: Am2: F5 G7 Am2:
いくつになってもこの気分 新緑見にゆこう

7 2: 7 2:
G Am G Am
なしてもないこと それでもとては新しい

G7 Am2:
何にも変えてはないこと

G7 Am2:
今日はいつもより違う

ひびきする SA

降り立ちドア開けた時

初夏の風が音を立てて

ふきすきとゆく 藤棚の下

青空の下 ベンチに座り

片手に持った ソフトクリーム

いくつになってもこの気分 見られる山並み

なしてもないこと それでも楽しい

何にも考えてないこと

今日はとても涼しい